

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	保育所等訪問支援 GEAR		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日	～	令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	75	(回答者数) 68
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日	～	令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	令和7年4月1日	～	令和8年3月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 45
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当社在籍職員は多様な資格を保持しており、これまでその資格を活かした職種の現場で働いていた経験があるため、現在訪問先である現場の状況を理解した上で支援することができる。	現在、訪問先の状況に合わせた経験のある職員を中心に訪問支援を行うようにしており、療育の観点とその現場の状況に合わせて生かせるよう配置している。	今後は、今もっている資格と新たに取り資格をうまく組み合わせ、視野の広い支援ができるようになっていきたいと考えている。
2	当社は保育所等訪問支援の単独事業所であり、多機能で行われている保育所等訪問支援よりも幅広い時間に対応することができる。保護者様や本人、訪問施設のニーズに合った支援を行うことができる。	集団活動の場を固定化するのではなく、いろいろな集団の場の状況や関わる人の違いの中でどのような変化が起こってくるのかを見るため、本人の実態の把握を行うようにしている。	訪問施設の教育・保育における教育課程を全職員が知ることで、今後起こり得る課題について予測をしながら長期的な目標を立て、スモールステップから自立に向かうための道筋を立てられる能力の向上を目指すため、研修への参加やいろいろな場でのコミュニティーの増加を行っていくようにしたい。
3	当社職員の中にも、子育て中であり、支援を行っている職員が多く在籍しているため、保護者様の困り感に寄り添える配置を行っている。	新入社員の募集に伴い、同じ悩みでお困りの方を積極的に雇用することにより、実際に経験したことを療育支援として活かすことができるように、法人としても社員とともに分かち合える環境づくりを行っている。	様々な悩みに関して、会社としても寄り添い、働き方を改革することにより、基盤となる職員の安定的な生活を提供することによって、保護者様や利用者様にも寄り添える環境を今後もつくりたいと考えている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援は、間接支援と直接支援という支援方法があるが、間接支援が基本となり、なかなか直接支援を行うことができないということが弱みである。	訪問施設の方で直接支援をするためには、教育課程を理解した上で関わる必要があるため、該当児童だけではなく一緒に過ごす児童に対しても配慮する必要があるため、なかなかその場を作ることが難しいと考える。しかし、実際には直接支援が必要な利用者様もいるため、学校や保育の現場の実態を把握し、協議をしながら必要に応じて対応することが必要だと考える。	現在までに行動面に課題がある利用者様やSSTなどを個別で行う必要がある利用者様に対しては、現在進行形で訪問施設の管理職の先生方を始め、担当の職員の先生と協議を行いながら、場の設定を行っていきけるようにしている。
2	保育所等訪問支援の利用回数は、放課後等デイサービスに比べ、利用回数が少ないため、利用者様との信頼関係をつくることに時間がかかってしまう。	本人と会うこと回数が少なく、授業中の様子を観察する時間が長いと、利用者様と直接的に話す環境を作ることができず、本人との信頼関係や安心して話せる環境を作るのに時間がかかってしまう。	できるだけ保護者様の方にもお話しをし、家族支援や事業所内での相談支援を行うことによって、利用者様と関わる頻度を、訪問支援で行う施設以外での場の設定をできるだけ多くつくれるように声をかけさせていただいている。
3			